

復活節第4主日（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：ヨハネ福音 10：1-10

イエスは言われた「門から入る者が羊飼いです。門番は羊飼いは門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。私は羊の門である。私を通して入る者は救われ、牧草を見つける。私が来たのは羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。」

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号#754、1465、2156-2159、1267-1271；YOUCAT #200 - 202、224）

教会は羊のさくであり、キリストはその必要唯一の入り口です。教会はまた羊の群れであり、神は自らその牧者となることを予告されました。この群れの羊たちは、人間である牧者たちに牧されているにせよ、キリスト自らによって絶えず導かれ養われています。キリストはご自分の命を羊たちのために与えたよき牧者である。司祭がゆるしの秘跡を授けるときには、迷った羊を探すよい羊飼ひ、放蕩息子の帰りを待ちわく父親、さらに公正で慈悲の裁判官として、キリストのよい牧者の務めを果たします。

洗礼の秘跡は「父と子と聖霊の名」(マタイ28:19)、即ち主のみ名によって、洗礼において人間を聖化し、キリスト者は教会で洗礼名を授かります。まず、キリスト者は神の栄光のために捧げる一日、及び祈りや行いを始めるにあたって、さらに誘惑や困難に遭うときに、十字架のしるしをし、「父と子と聖霊のみ名によって。アーマン」と唱えます。「洗礼名」として、愛の模範を示し、執り成しをしてくれるために、あるキリストに倣って忠実な生活を送った保護の聖人の名前をいただくことができます。あるキリストの神秘、或いはあるキリスト教的徳を表すものをつけることができます。そこで、神は一人一人を名指しで呼びになります。天の国では、神のみ名を記されたそれぞれの人格の、神秘的で独自の性格がいささかの影もなく輝き出すことでしょう。なぜなら、洗礼は私たちをキリストの体の肢体とし、私たちを教会に結びあわせるということです。受洗者、暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださったかたの力あるわざを広く伝えるために、選ばれた民なのです。また、教会の交わりの中では彼らに仕え、教会の指導者たちの言うことを聞き入れて服従し、尊敬と愛情とをもって、指導者たちを世話するようにと召されています。彼らには、神の子として生まれ変わって、神から教会を通して受けた信仰を人々の前に宣言する義務と、神の民の使徒的活動、宣教活動に参加する義務とがあります。同時に、洗礼は再生されたすべての人の間に存在する一致の秘跡的絆です。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#148 教会の表象：牧畜から取られた表象は、囲い、羊の群れ、羊飼ひを含む。

#263-264 洗礼の秘跡の準備と効果：回心した洗礼志願者は、求道期の準備と信仰宣言によって、洗礼を受けて、原罪、すべての自罪、また罪ゆえのすべての罰を赦します。聖化と義化の恩寵によって三位一体の神の命にあずからせます。また、キリストと結ばれて、キリスト者と聖人（教会）の交わり、キリストの祭司職を果たします。

最後の祈り：全能永遠の神よ、よい牧者キリストは、私たちのために命を捧げてくださいました。キリストの声に従う私たちがあなたの国に導かれ、生活の中で洗礼の恵と交わりの命を生きることができますように。主イエスキリストのみ名によって。アーマン。